平成 26 年度

地域発　元気づくり支援金　表彰式及び活用事例発表会選定委員講評（概要）

平成 26 年 10 月 31 日（金）

＜中川委員＞

受賞された皆様、おめでとうございます。

今回、審査は６回目か７回目になるが、例年以上にバラエティに富んでいながら、ひとつひとつ地に足がついた事業だった。

特に知事表彰の牛伏鉢伏友の会、国土交通大臣賞受賞、知事表彰に加え、内閣総理大臣賞受賞された。おめでとうございます。大変御苦労頂いている。先日この場所を拝見にあがり、地域の大変大きな宝だと感じている。

やまこの学校、ケヤキの道の会の皆さん、私も以前安曇野市に御縁があった関係で、大変よく皆さんの御苦労を存じ上げているし、発表の写真に懐かしい顔が写っていて、大変懐かしい思いがした。

基本的に 120～130 の事業の、以前は 3 分の２から４分の３くらいは自分の足で直接拝見にあがり、成績や成果がどうだったのか確認をしていた。最近はちょっとバタバタしていて動けないが、麻績村の堰堤には大変興味があるので、ぜひ一度近いうちに拝見にあがりたい。

みなさま大変おめでとうございました。

＜竹本委員＞

今日は受賞をされた皆様、おめでとうございます。

私は初めて選定委員に加えさせていただき、それぞれ見させていただいたが、皆様、熱意が素晴らしくて、どれも素晴らしかったが、今回受賞のこの事例については、どれもとても素晴らしかった。

都会がかなり経済的に潤っているようなニュースがたくさんあるが、まだまだ地方は元気がない。固定資産税の土地の評価が下がっているということは、デフレから脱却していないという状況にあるのが地方の実態だと思うが、この事例をみると、いかにこの郷土を豊かにして、大勢の人に来てもらえるようにするか、あるいは子々孫々まで栄えていくひとつの種をまこうという郷土愛のようなものが全てに感じられて、本当に素晴らしい表彰になったかと思う。

本当におめでとうございました。

＜鳥海委員＞

発表を拝見し、私が皆さんに共通して感じたのは、非常に質の高い文化性があるということを感じた。

また、それぞれの方々が非常に自立性を持ってやっていらっしゃる。

これは当然元気づくり支援金という交付金を持って援助させていただいている

性質のものである。それぞれいろいろ観点があるけれども、地域振興であったり、健康増進であったりという面もあるが、ぜひ次世代の育成、特に若い人を巻き込む、そしてそれが地域に波及していくことをぜひいろいろ考えていただきたいと思ったところ。

その上で、また今後継続して、ぜひまた皆さんの生きがいになって、地域が発展したらいいと感じたところ。

本日はおめでとうございます。

＜波間委員＞

受賞された皆様、誠におめでとうございます。

それぞれの事業であるが、見た限り、目的がきちんとしっかりしている。

地域のニーズを的確にとらえている。そしてそれを踏まえて、成果がきちんと出ている事業である。

他の地域においてもそのまま使える形になっている。事例というより、モデル的な事例として県内、よその県まで発展できるような事業だったと思う。

これからも工夫され、地域の皆様、行政を巻き込んだ形で、より発展していっていただければと思う。

私どもは建設事務所ではあるが、できる限りの応援をしていきたいとおもっているので、今後ともよろしくお願いしたい。

本日はおめでとうございました。

＜畑井委員＞

本日は、優良事例と言うことで、素晴らしい事業や取組と、わかりやすい御説明ありがとうございました。

私から２点お話をさせていただきたい。

まず、元気づくり支援金というのは、皆さんご存知のとおり、地域の課題に対してどういうふうに対応していくのか、それに関して様々な事業を皆様方が御検討されて推進していく、それをサポートするのが元気づくり支援金だと思う。

元気づくり支援金を生かしていくために考えていかなければいけない一つのポイントは、地域にある様々な課題、問題点をいかにして抽出するか、捉えるかがまずひとつ大きい問題であると思う。

例えばＡという課題があり、その課題に対してアクションを起こす、課題に対してそれに対する対応策を考えるのが一般的だと思う。

課題に対してそのまま答えをだそうとすると、ここに挙げられている事業ではないのだが、いろいろな事業の内容等見させてもらうと、どうしても、非常に平面的で、ややもするとマンネリ化してしまうような事業が結構、散見されて

くる。

例えば今日、優良事例の中に、草尾柿組合様の発表があったが、あの発表を見ていると、農家の高齢化の問題とか、荒廃地への対応をどうするとか、名産品をどう開発していこうかとか、雇用をどうしたら生み出していかれるのだろうかとか、課題がいろいろバリエーションがあり、それをうまくぐるぐるぐるっとまとめ、対応策としてこんなのはどうだろうかというような形で事業が出されているのではないかと思う。

例えば、来訪者が少ないのでホームページをつくってみようかとか、マップを作ってみようかみたいな申請が結構あがってくるが、そうではなくて、ＡとかＢとかＣとかいう課題があった時に、それを足してみようか、それをひっくるめてみようか、ということを考えていただくと、オリジナリティのある取組や、継続性の保てる事業が考えられてくるのではないかと思う。

課題というのは平面で見るのではなく、立体的に見るということで、それをうまく組み合わせる形で事業を検討していただけるといいかな、というのがまず１点。

もうひとつは、事業の継続性に関してだが、先ほども話に出てきたが、皆様方をざっと見させていただくと、若い方達が山ほどいるという感じではない。事業を継続していくということになると、皆様方のできる期間は限りがあると思うし、地域づくりは皆様御理解いただいているとおり、非常に時間がかかる。

いい事業でも１年やっておしまい、２年やっておしまいのように、数年やっておしまいというのはもったいない。良い事業であればあるほど、継続性をいかに担保していくのかを考えなければならない。そのために人をどう巻き込んでいくのか、人材をどう組み込んでいくのか、ネットワークをどう育んでいくのかが非常に大切なプロセスになっていくんだと思う。

私の勤める大学にも、若いだけの学生がごまんといる。そういう学生達も、地域づくりや地域に出て何かしたいという気持ちはあるが、きっかけ、タイミングがなくて、悶々としながら時間だけ経過していって卒業していく。学生は時間もあるし、吸収力も非常にある年代なので、ぜひそういった若い方達に、（さまざまな素晴らしい事業をそれぞれ発表されていたので）接点をもつとか、きっかけを与えるようなことも意識していただいて、事業を継続させていっていただければと思う。

この後、第２部で、ネットワーク作りとか組織のあり方というテーマもあるようなので、事業の継続性をいかにして担保していくのかも考えていただくとありがたいと思う。

つたない話ではあるが、皆様方のこれからの積極的な取組を期待して、本日はおめでとうございますということで閉めさせていただきたい。